

内装制限緩和 告示内容に基づく離隔距離の範囲 (ダブル760WD No.1/3)

国土交通省告示第225号 第一項 二号 イ、ロ (ストーブの発熱量18kW以下のストーブを設置した室に限る。)

○告示第225号第一項第二号イの場合

※範囲計算条件

◇ストーブ本体機種：ダブル760WD

◇壁のシールド無し

◇側面扉を開口部とみなさない。

◇水平投影面積は脚を含まない。

◇計算方法・計算結果

□ストーブ等可燃物燃焼水平距離

ストーブの鉛直投影面積 (正面・背面) : $A_v=4602\text{cm}^2$ (78cm×59cm)

ストーブの鉛直投影面積 (左右側面) : $A_v=3510.5\text{cm}^2$ (59.5cm×59cm)

1. 正面 (開口部がある面の離隔距離 (ガラス等扉付))

$$L_{\text{sop}}=2.4 \times \sqrt{4446}=162.8\text{cm}$$

2. 右側面 (開口部がない面の離隔距離)

(※薪投入用サイドドア：常時使用しない扉のため開口部とみなさない)

$$L_{\text{ssl}}=1.59 \times \sqrt{3510.5}=94.2\text{cm}$$

3. 左側面 (開口部がない面の離隔距離)

$$L_{\text{ssl}}=1.59 \times \sqrt{3510.5}=94.2\text{cm}$$

4. 背面 (開口部がない面の離隔距離)

$$L_{\text{ssl}}=1.59 \times \sqrt{4602}=107.9\text{cm}$$

□ストーブ等可燃物燃焼垂直距離

ストーブの水平投影面積 : $A_h=4641\text{cm}^2$ (78cm×59.5cm)

5. ストーブ上面の離隔距離

$$H_s=0.0106 \times (1 + (10000 / (4641 + 800))) \times 4641 = 139.6\text{cm}$$

□ストーブ等可燃物燃焼基準距離 (作図により軌跡を示す)

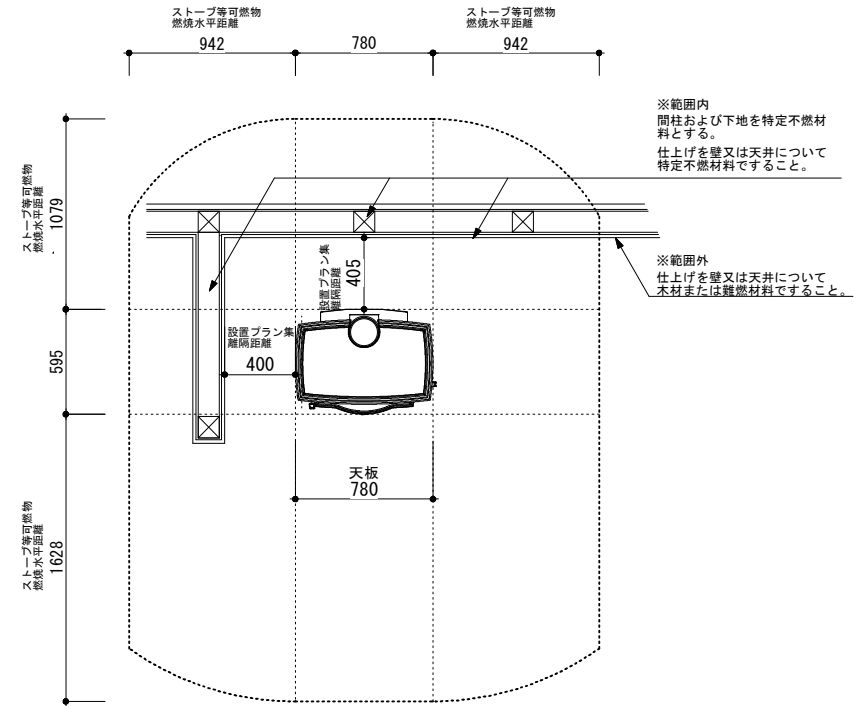
$$D_s = ((H_s - h) / H_s) \times L_s$$

(※ D_s は各高さの計算結果の軌跡によって表現される。)

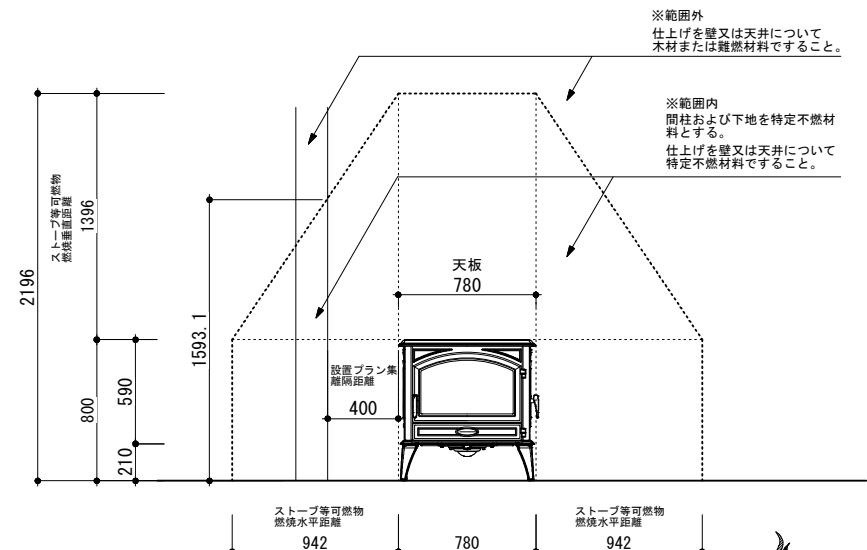
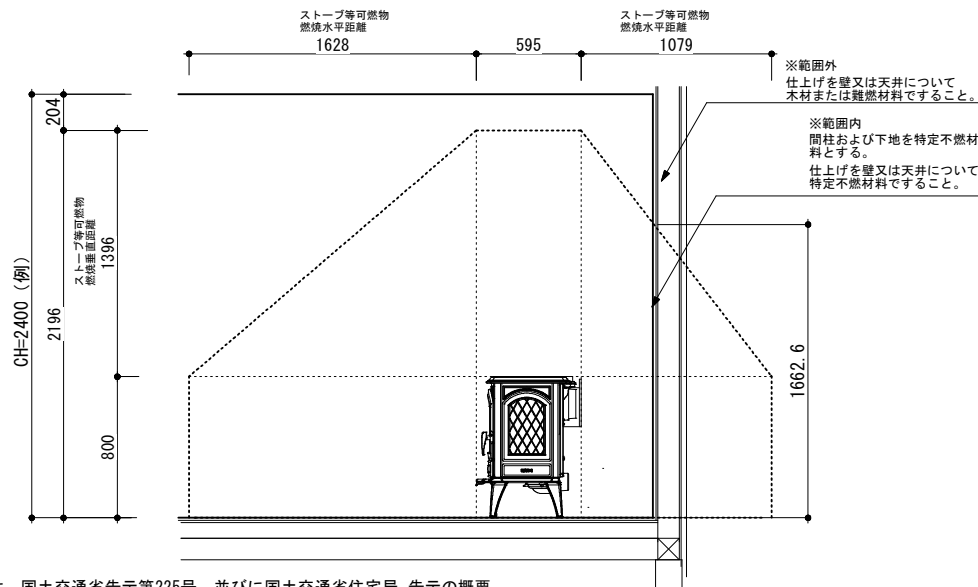
◇特定不燃材料

不燃材料のうち、平成12年建設省告示第1400号第1号から第8号まで、第10号、第12号から第17号までに該当する材料。

- ・コンクリート
- ・れんが
- ・瓦
- ・陶磁器タイル
- ・繊維強化セメント板
- ・ガラス繊維混入セメント板 (厚さ3mm以上)
- ・繊維混入ケイ酸カルシウム板 (厚さ5mm以上)
- ・鉄鋼
- ・金属板
- ・モルタル
- ・しっくい
- ・石
- ・せっこうボード
(厚さ12mm以上で、ボード用原紙の厚さが0.6mm以下のもの)
- ・ロックウール
- ・グラスウール板



※ストーブ壁仕上の仕様はメトス設置プラン集を参考のこと。



※本資料は、国土交通省告示第225号、並びに国土交通省住宅局 告示の概要、および独立行政法人 建築研究所 住宅の内装防火設計マニュアルによる。

内装制限緩和 告示内容に基づく離隔距離の範囲 (ドブレ760WD No.3/3)

国土交通省告示第225号 第一項 二号 イ、ロ (ストーブの発熱量18kW以下のストーブを設置した室に限る。)

○告示第225号第一項第二号ロの場合

※遮熱板等範囲計算の一例 (コーナー設置の場合)

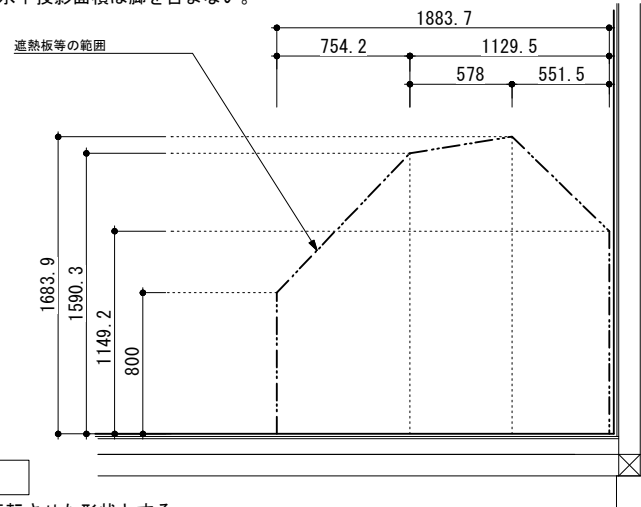
※範囲計算条件

◇ストーブ本体機種：ドブレ760WD

◇壁のシールド：遮熱板等あり

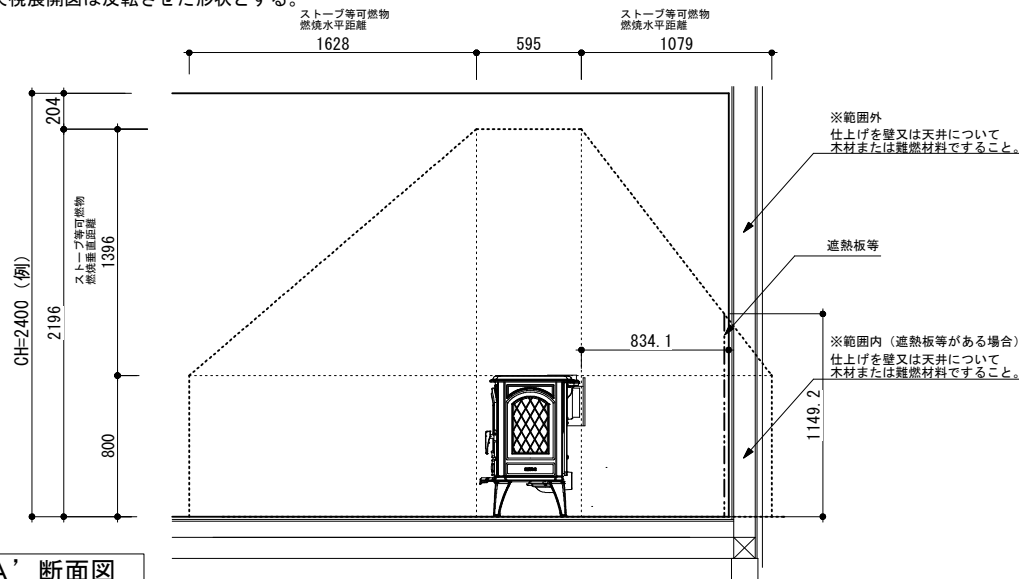
◇側面扉を開口部とみなさない。

◇水平投影面積は脚を含まない。



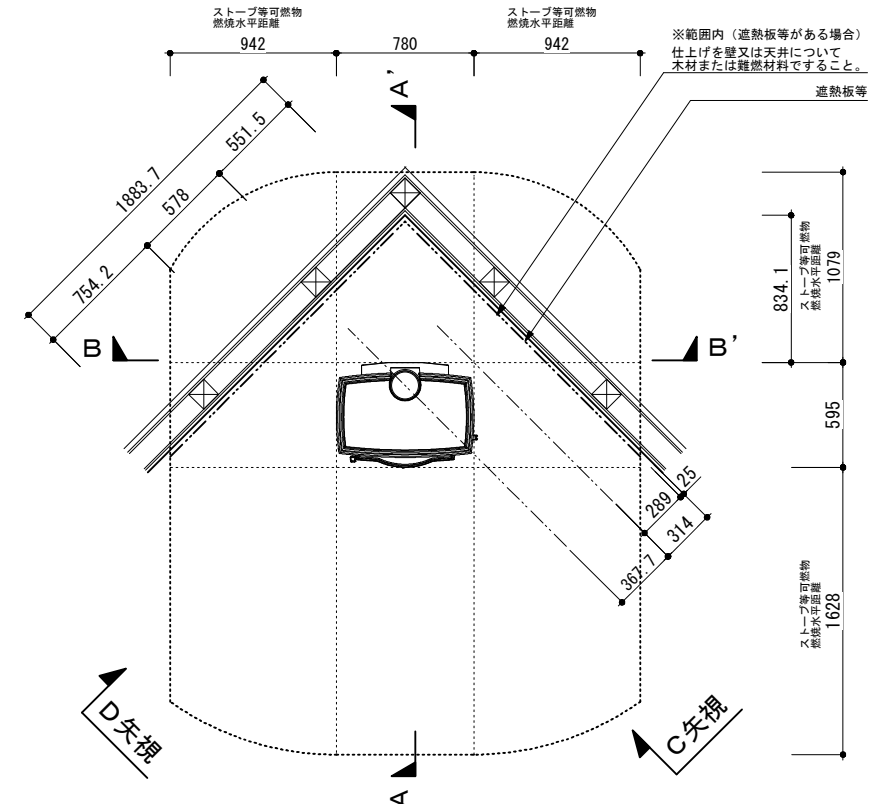
C矢視展開図

※D矢視展開図は反転させた形状とする。



A-A'断面図

※本資料は、国土交通省告示第225号、並びに国土交通省住宅局 告示の概要、および独立行政法人 建築研究所 住宅の内装防火設計マニュアルによる。



B-B'断面図

